

Minuma Shun Sai 見沼・旬彩

2022年夏号 vol.20



上山口たんぼ班

上山口新田の米づくり・水田を継承する市民団体

1.26ha(1町2反6畝)の水田を耕作

NPO法人見沼ファーム21 上山口たんぼ班

5月初旬、キジの鳴き声が響き、ミズキの枝先に白い小さな花がたわわに咲く中、今年の田植えも無事終了。7月には小さな稻の花が咲き、朝の田んぼはほのかなお米の匂いがします。県からの委託を受け、2004年から活動を開始した上山口たんぼ班。現在、県田んぼ3.9反、援農田んぼ8.7反で「とねのめぐみ」を栽培しています。

NPO法人見沼ファーム21 <https://www.minumafarm21.org>



夏の代表野菜、トマト。

豊かに溢れる種類が店頭に並ぶ季節になりました。トマトは老化、風邪、動脈硬化予防など抗酸化作用の効果が高い野菜として知られています。



11年目を迎えた「INAKA PROJECT」



▲平野史人さん

取材の日は突然の豪雨。その中で子どもたちの田植えが続けられていました。

2012年から活動を開始して今年で11年目的一般社団法人INAKA PROJECT。ライフスタイルにINAKAという+a、みんなが想像する『イナカでやってみたいワクワク』。地元の人たちも巻き込んでカタチしていくPROJECTです。

見沼での活動場所は、見沼有料橋のすぐ南の「浅子農園・見沼のたまご」のお店の西側の約1.4haで、公有地と浅子農園さんの農地を中心に、「水田・畑・お花畠・ヤギ牧場など」バラエティー豊かな

「染谷・加田屋地区整備室」が設置されました。

見沼たんぽ地域の重要な課題の一つである「染谷公園(仮称)」や「加田屋自然環境公園(仮称)」の整備を総合的に推進するため、さいたま市都市局に本年4月から6名の職員で新しく設置された「染谷・加田屋地区整備室」。

室長の秋元さんに、今後の整備の進め方などについてお話しをお伺いしてきました。

以下、室長さんのお話しの概要

- ①これまで大宮聖苑管理事務所が中心となり、関係所管と連携のもと進めてきた「(仮称)染谷公園」や「加田屋地区」の計画・整備について、今年度から当室が主体となって、関係所管と連携をとりながら進めています。
- ②この課題に取り組むことは、全員初めてなので、地権者さんや市民団体さんなどのご意見を伺い、勉強しながら計画を進めていきます。
- ③行政だけで進められる事業ではないので、地域

楽しい若者集団の体験農園の活動が展開されています。

代表の平野史人さんは、大学時代をハワイで過ごし、大学の授業をキッカケに、「都会と田舎を行き来するライフスタイルに魅力」を感じ、日本で都会と田舎を繋ぐ「INAKA PROJECT」を2012年から始めたとのこと。雨の中での田植えに参加した子どもたちやご家族のみなさんに貴重な体験の場を提供し、成長を見守っているようでした。

多彩な活動をホームページに掲載。

レポート:INAKA PROJECT (inakajapan.com)



▲右から二人目の秋元室長さんと関係市民団体のメンバーの方々のご意見や市民団体さんからのアイデアの提供などご協力をいただきたいと思います。

ちなみに、関係市民団体の参加メンバーからは、「加田屋地区の水田の価値を大切にし、斜面林の自然環境を守った整備計画となるように検討を進めてください。」との意見が出されました。

武藏一宮氷川神社の例祭

例祭は8月1日10時より斎行され、各町内の山車、神輿が神橋前の参道を挟み勢揃いする中を、正装の衣冠を着用した神職が参進します。その後、同様に正装の勅使が御幣物を捧持した隨員と楽器を従え勅使斎館より本殿へと参進します。1年に1度、御祭神、または神社に由緒ある日に行われる氷川神社にとり最も重要なお祭りが例祭です。大祭である為、神職は神社に籠り潔斎致します。祭典中は、境内撮影禁止、楼門内への一般入場は出来ません。



◀▲勅使御差遣

見沼のお店紹介!

ヨロ研カフェ さいたま市はカラフルで栄養価の高いヨーロッパ野菜の日本一の産地

「ヨーロッパの野菜が手に入らない、輸入品は高価で鮮度が低い」というレストランの思い、「高収益が期待できる、新しい野菜に挑戦したい」という若手農家の思いから、西洋野菜の「地産地消」に取り組む「さいたまヨーロッパ野菜研究会」が2013年に誕生しました。今ではバラエティに富んだ西洋野菜が県内の千軒以上のレストランで提供されるようになりました。70種以上の野菜が栽培されていますが、ロマネスコ、リーキ、ラディッキオ、ビーツ、ステッキオ等食べたことがありますか?

そして岩槻人形博物館隣の「にぎわい交流館いわつき」に「ヨーロッパ野菜をメインにした本格的カフェレストラン」として「ヨロ研カフェ」がオープンし、野菜直売やショップコーナーが併設されています。開放的な明るいカフェスペースでは、メニューは野菜たっぷりのワンプレートやカレーにサラダ、スムージー、ジェラート、ケーキ等がおいしく人気です。

岩槻区本町6-1-2(にぎわい交流館いわつき1F、駐車場有)

TEL.048-720-8512

営業時間: 平日 ランチ10:00 ~ 14:30、カフェ 14:30 ~

17:00 (L.O.16:30) / 土日祝ランチ10:00 ~ 15:30

カフェ 15:30 ~ 18:00 (L.O.17:00) 年中無休



▲店頭



▲ヨロ研カレーと採れたて野菜のサラダ



▲ヨーロッパ野菜と直売コーナー

地産地消のパイオニア&リード役 「オーガニックハーベスト丸山さん」

丸山文隆さんは大学で農業を学び、園芸関係の企業に就職。その後、さいたま市の農政部門や都市計画部門で勤務され、16年前に脱サラして3,000m²から農業経営者として自立。

さいたま市農政部門時代は、市内の直売所の開設などにも関わり、現在は6haほどの農地で、スイスへ農業留学をされた奥様と社員の方々と力を合わせて多品目の路地野菜を栽培されています。

「見沼の絆」をブランド名に、販売ルートもデパートやスーパーの直売コーナー及び農協の直売所など多方面にわたっており、現在、8店舗で販売しています。

見沼たんぽ地域の「地産地消」をリードするすぐれた農業経営体として高く評価されています。

見沼区蓮沼1694 TEL.048-687-0140

建設残土捨て場をハーブ園に

見沼たんぽを楽しむ会・第四農園のご紹介

所在地:浦和西高校よりも150m上流。大原二丁目の見沼代用水西縁にそった水路沿いの斜面地です。

経緯:2010年~2011年にかけて、地域の地権者さんから「建設残土が盛土された耕作放棄地約600m²が、オオブタクサなどの雑草だらけで環境的にもよくないので、出来たら市民団体でお花畠などにしてほしい」との要請が楽しむ会の福島代表に伝えられました。

その要望を会員の一部(小黒農園長)が前向きに受けとめ、埼玉県に公有地として借り上げてもらつ



▲アーティチョークの花の蕾と小黒農園長さん



▲開花したアーティチョーク



▲第四農園・ハーブ園の南側部分



▲丸山恵美子さんと文隆さん



▲YAOKO蓮沼店の直売コーナーでの販売活動

た上でお花畠として管理受託することとなりました。
5年ほど続いた開墾作業

建設残土の中の巨大な石の撤去やクズなどの雑草の根っこ掘り起こし、そして生え続ける雑草の除去などが5年ほど続き、小黒農園長さんと奥様の11年間の汗の結晶として、近年、やっとハーブ園らしくなってきました。

アーティチョークの大きな花を見にきてください

四季折々の美しい花が咲くハーブ園ですが、夏を迎える今は、アーティチョークの大きなつぼみが膨らんできており、7月初旬に開花します。ちなみに、イタリア料理などでは、つぼみを塩ゆでにして食べるのが一般的とのことです。



十色(いろ)とうがらしファーム

大きく広がる空と、緑の木々や農地の続く大地。様々な問題を抱えながらも、まだこれだけ豊かな自然を残している見沼。先人たちの努力によって受け継がれてきたこの風景を次につなげていきたい、そのため自分たちの手で農地を守りたい。見沼の福祉系のNPO法人で農体験イベントの企画運営に携わっていた3人(サカール祥子さん、釘宮葵さん、松葉早智さん)が、そんな想いから一念発起して立ち上げたのが、「十色とうがらしファーム」。

なんと世界各地では3,000種類以上のとうがら



▲釘宮葵さん(左)、サカール祥子さん(右)

JA直売所「安心館シャキシャキ」

JR北浦和駅を背にして浦高通りを見沼方面へ。産業道路を越え、すぐに消防署が左手に見え、その先並びの「JAさいたま木崎ぐるめ米ランド」内にあります。売り場面積は約330m²もあり、JA最大規模の直売所。店長の牧野勝雄さんは地元農家さんの新鮮な作物を店内処理しと豊富に揃え、隅々にまで生産者、購入者への気配りが感じられる店内づくりを目指しています。毎週水曜日は米特売日、店頭玄米全品1kgあたり50円引き。

浦和区領家4-24-16
TEL. 048-834-2890
営業日時:3月~11月 10:00 ~ 18:00
/ 12月~2月 10:00 ~ 17:30
休館日:年末年始

しが栽培されているそうで、今年は世界でベストストリーに入る激辛品種からほとんど辛味のないものまで、アフリカ、ブラジル、メキシコ、インド、タイ、韓国等々、色や形も様々な45種類を栽培。どんなうがらしがあるのか、激辛ファンでなくとも気になります。

その他にも水田体験や、ビール麦を栽培して地元の醸造所でクラフトビールを作る等々、気になる企画が次々と。販売やイベントについては下記ホームページをご覧下さい。

ホームページ:tairo-farm.com
お問い合わせはメールで:info@tairo-farm.com



▲畑は総院のすぐ近く



▲牧野勝雄さん



◀店頭には季節の花々が並んでいます。



夏の果物「ブルーベリー」の摘み取り体験

ブルーベリープラザ浦和は、県内最大の規模を誇るブルーベリー園です。広さは4.5ヘクタール、当園の特長は品種の多さの他に、ビックリするような大粒のブルーベリーに出会えることです。自家製ブルーベリージャムや移動販売車でかき氷なども販売しております。

・6月上旬から7月上旬:9:00 ~ 12:00ごろまで(予約不要)
・7月上旬から8月下旬:9:00 ~ 15:00ごろまで(予約不要)

※雨天休園有り※団体様要連絡

・食べ放題の入園料:1人700円(時間制限なし)

・持ち帰り料金:100g/180円~ 200円

・場所:緑区大崎589(大崎公園そば)

・交通:バス・浦和駅東口①番乗場から「念佛橋」下車5分から10分

・連絡先:「ブルーベリープラザ浦和」(備藤行裕)

TEL.090-1990-2020 FAX 048-878-5059

ホームページ:ブルーベリープラザ浦和で検索

<https://www.blueberry-plaza.com/>



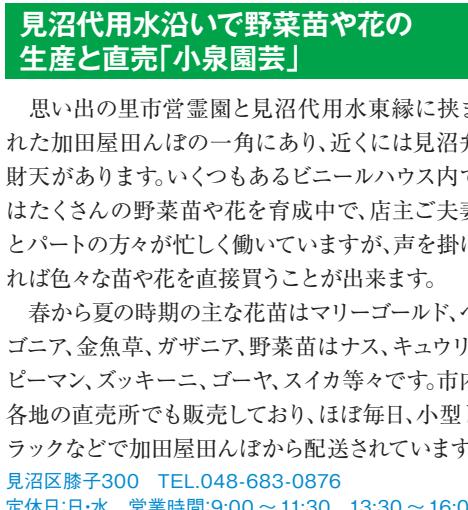
見沼代用水沿いで野菜苗や花の生産と直売「小泉園芸」

思い出の里市営霊園と見沼代用水東縁に挟まれた加田屋田んぼの一角にあり、近くには見沼弁財天があります。いくつもあるビニールハウス内ではたくさんの野菜苗や花を育成中で、店主ご夫妻とパートの方々が忙しく働いていますが、声を掛ければ色々な苗や花を直接買うことが出来ます。

春から夏の時期の主な花苗はマリーゴールド、ベゴニア、金魚草、ガザニア、野菜苗はナス、キュウリ、ピーマン、ズッキーニ、ゴーヤ、スイカ等々です。市内各地の直売所でも販売しており、ほぼ毎日、小型トラックなどで加田屋田んぼから配達されています。

見沼区膝子300 TEL.048-683-0876

定休日:日・水 営業時間:9:00 ~ 11:30 13:30 ~ 16:00



農産物直売所「あさつゆの里」

地元で朝採りされた新鮮な農産物を販売しています。6月からは、特産のエダマメが旬をむかえ、他にも地域の伝統野菜、山東菜、花芯山東菜、岩槻ネギ、クワイの販売、トマト、小松菜、花卉類など多数、新鮮な野菜を取り揃えています。地元地消のヨーロッパ野菜研究会のミネストローネがあります。納品は地元農家(150戸)さんが自主的に行っています。

岩槻区城南4-1-40 TEL. 048-798-8311

営業時間 9:00 ~ 17:00



うまい casa mia farm(カーサミアファーム) 我が家農園 原田利枝子さん



家族や大切な人に食べさせたくなる野菜を目指し、調理用トマト(サンマルツァーノ等)を中心に個性的で美味しい野菜を農薬を使わずに手をかけない(ソバージュ方式)で育てています。(食用ホウズキ、マクワウリ)

うまいさんは方言で、うまい=うまいを意味し、casa mia farmはうまいの野菜を自分の菜園で作った野菜のような感覚でお客様に食べて欲しいという気持ちで付けました。

幼少期から祖父母の手伝いでサトウキビの収穫を行い身近に農業があり大学の農学部へ進みました。子育て及びレンタル農園の菜園アドバイザーの仕事を通して、国産で安全な美味しい野菜作りに興味を持ち、再度若いころに目指した農業の道で頑張っています。

見沼グリーンセンターの圃場で就農に向けた農業研修を1年受け、就農に必要な知識や技術を習得しました。学生時代に学んだ、作物学を生かして、2017年からは市民農園の菜園アドバイザーとしてパート勤務し継続中です。農業には5年携わっています。現在、マルシェや直売所などで販売し、今後はインターネット販売や収穫体験農園を目標にしています。

北区見沼1丁目12番(大きさ1反)

あさ霧と湿原の里「染谷花しょうぶ園」

植木の生産販売を営む染谷植物園さんが、昭和58年に敷地の一部にあった低湿地の有効活用を図るため、花しょうぶ園を開園。

現在約8,000m²の園内には6月になると、花しょうぶを中心アジサイなどが綺を競っています。

このほか園内には花見台、橋、東屋、茶屋、売店などの施設も整備され、6月の一時期、来園者のここを和ませてくれることでしょう。

見沼区染谷2-248 TEL.048-683-8787 (代)

入園料:一人500円

なお同園周辺は見沼田んぼ・見沼代用水・総延長20kmを誇る桜街道・緑のヘルシーロード(自転車・歩行者専用の道路)・見沼区の花クマガイソウの自生地と自然豊かな景観を楽しむことが出来ます。



日本一のヤブカンゾウの花鑑賞ツア



夏の季節の見沼代用水西縁に、「ヤブカンゾウ」が咲き誇る日本一長い花の道(約1.5km)があることをご存知ですか。NPO法人カンゾウを育てる会など地域の人たちが20年以上をかけて保全育成してきた場所です。

7月2日(土)・7月9日(土)

(小雨決行、荒天時順延・いずれも翌日に順延)

- 集合時刻:9:30
- 集合場所:さいたま新都心駅改札を出た所
- コース:さいたま新都心駅→中山道・高台橋→北袋橋→見沼代用水西縁にそってヤブカンゾウを鑑賞しながら土手を歩く→みぬま木崎ひろば(トイレ休憩)→中山橋(バス)⇒さいたま新都心駅解散(12:30)
- 歩行距離:約3.5km／所要時間:約3時間
- 参加費:一人300円
- 申込・問合せ先:メール、電話 又はFAXでお申込みください。(氏名と電話番号は必ずお知らせください。雨天の際の連絡や今後のイベントご紹介のみに使用します。)
- 7/2ツア実施責任者:五十嵐
メール:igarashi-0221@jcom.zaq.ne.jp
FAX.048-735-8540 TEL.080-5441-6612
- 7/9ツア実施責任者:北原
メール:minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp
FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2022年 夏号 vol.20

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ
発行日：2022年6月5日

We
Love
Minuma



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、からの助成金で印刷・発行しております。